当社におけるDXの進捗

2026年9月26日

協立電機株式会社
代表取締役社長　大石 勝久

私たちが掲げるDX戦略の進捗状況について、以下の通りお知らせいたします。

①顧客対応力強化に向けたDX

当社は顧客対応力を強化すべく、お客様情報の整備と共有・活用を進めるため、既に導入済みのSFAへの顧客情報登録を進めております。

現在、SFA登録率は96%となっており、100%を目指して登録を進めています。
また、営業活動におけるSFA活用も進んでおり、SFA利用率は87%となっております。
利用率についても100%を目指し、顧客対応力の強化を図ってまいります。

今後もSFAの登録および活用を継続して進め、顧客情報の共有および提案活動の効率化を図り、顧客対応力のさらなる強化につなげてまいります。

②DX関連売上比率の向上

当社は製造現場におけるDXを自ら推進し、「フィジカルAI」活用ノウハウをお客様に提案することでDX関連売上比率の向上に取り組んでおります。

お客様への提案の場として、当社主催の展示会である「協立グループ展in静岡」を2027年10月20日に開催し、ロボット・FAソリューション、分析ソリューション、IoT・DXソリューション等、当社のノウハウを含め様々なDXソリューションの紹介を行う予定です。

これらの取り組みにより、2026年度までにDX関連売上比率5%の達成を目標として、提案活動を進めております。今後も製造現場DXに関する提案活動を継続し、DXソリューションの発信と提案を進めてまいります。

③DX基盤「BI・ダッシュボード化プロジェクト」の進捗状況

当社では経営数字把握の高度化を図るべく、新基幹システムを構築し、2024年11月より運用を開始しております。
現在は基幹システムに蓄積されたデータを活用し、BIツールによる経営数値の可視化や業務効率化を進め、経営判断の迅速化およびPDCAサイクルの高度化を図っております。

また、新たにAIプラットフォームの導入（2026年4月導入）を進めており、生成AIを活用した情報整理、資料作成支援、技術情報検索などにより、業務効率化および社内ナレッジの共有を推進してまいります。

今後もAI技術の活用を進め、業務効率化および顧客提案力のさらなる向上を図ってまいります。